

【悲報】 謎の死を遂げた
人がいる世界の神様、
ジヨルノ・ジョバーナ
みたいになってしまう

ルクセウス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

なんか降ってきたので書いた。

目次

【悲報】謎の死を遂げた人がいる世界の神様、ジヨルノ・ジヨバーナみたいになつて	1
しまう	1
勢いだけのネタなのに二つ目あげるとかアホなのは？	5

【悲報】 謎の死を遂げた人がいる世界の神様、ジヨルノ・ジヨバーナみたいになつてしまふ

目を覚ますと、そこには常に形が揺らぎ一定の形を持たない、それでいて常にどこもなく金色の髪をコロネ状にしたような雰囲気を持つ生物がいた。

「……は……?」

「あなたが運命とは違つた死に方をした罪で転生させます! 理由はもちろんお分かりですわね?」

「は?」

「あなたが勝手に死んだことで皆に迷惑をかけ、運命を破壊したからです!」
「え? え?」

正直、何を言っているかわからない。運命がどうの言ってるけど、俺はポ○モング○をやるために歩道を歩いていたら、そこにトラックが突つ込んできたんだ。それならむしろ、トラックの運転手の方が運命を破壊したのではないだろうか? 質問しようにも、まくしたてるように話すせいで、口を挟めない。どうしろと言ふんだ。

そんなことを考えているうちに、謎の生物の話は進んでいく。

「覚悟の準備をしておいて下さい。いまずぐ転生させます。チートも渡します」

あれ？チートくれるんだ。それなら、来世で俺 t u e e できるんじゃないやね？ハーレムとかもさ。普通にラッキーなのでは？

「来世の死後にもここに問答無用できてもらいます。世界を救う準備もしておいて下さい！」

あつ、やつぱり条件はつけられるんだ。世界を救うって具体的に何をすれば良いんだろ？吐き気を催す邪悪の様な魔王でもいるのかな？

「あなたは犯罪者です！地獄にぶち込まれる楽しみにしておいて下さい！いいですねー！」

いやだから、犯罪者なのはトラツクの運転手ですよ。ていうか、転生するのか、地獄に送られるのかどっちなんだよ。何？来世で世界救えなかつたら、地獄に送られるの？酷くない？まあ、チートの内容によるけど。

「覚悟の準備はできましたか？それでは転生させます！いいですねー！」

「アツハイ」

え？なんで右足上げてるの？え？え？いやー、蹴つたりしないよね？ね？

「無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄、無駄アー！」

ふざけんなよ、このクソ野郎おやおお！！？

ん?ここは…。俺は世界を滅ぼそうとしていた魔王を倒し、ハーレムを作って、その内の1人に刺されて死んだはずじゃ……?

「あつ!!?お前は!!?」

「あなたを世界を救えなかつた罪で地獄に落とします!理由はもちろんお分かりですね?」

「は!!?俺は魔王を倒して世界をすくつただろ!!?」

「あなたが真の黒幕である邪神を倒す前に死に、皆の幸せを破壊したからです!」

「はあ!!?そんなの、何も言わずに転生させたお前が悪いんだろうが!」

「覚悟の準備をしておいて下さい。ちかいうち閻魔に訴えます。裁判も起こします。裁判所にも問答無用できてもらいます。罰を受ける準備もしておいて下さい!」

「こつにの話を聞けえ!!?」

「あなたは犯罪者です!無間地獄にぶち込まれる楽しみにしておいて下さい!いいですね!」

「よくねえ!!?」

結局、俺は無間地獄で罪を償わされた。

勢いだけのネタなのに二つ目あげるとかアホなのでは？

目を覚ますと、そこには常に形が揺らぎ一定の形を持たない、それでいて常にどこもなく金色の髪をコロナ状にして泣いているような雰囲気を持つ生物がいた。

「……は……？」

「あなたを転生させます！理由はもちろんお分かりですね？あなたが悲惨すぎる死に方をして、見ていられなかったからです！」

え？俺死んだの？まったく記憶がないんだけど……

「覚悟の準備をしておいて下さい。ちかいうちに転生させます。チートもつけます。来世では問答無用で幸せになってもらいます。感謝の準備もしておいて下さい！貴方は転生者です！異世界にぶち込まれる楽しみにおいて下さい！いいですね！」

「ま、待つてくれ！どういうことか、全くわからないんだけど……？」

「あなたに説明します！理由はもちろんお分かりですね？あなたが現状を理解できず、困惑しているからです！」

「あの一、その話し方しかできないの？」

ピロロロロロ……アイガッタビリィー

その音は突然聞こえてきた。それは、詠唱の始まりのようで、不安を感じさせるとともに、なぜか少しだけ笑えてきた。俺はそのことを気にしつつ、音が聞こえてきた方へ振り返る。するとそこには、外見的には一般人のはずなのに、なぜか最終的に自分の名前に神とつけたような気がしてならない生物がいた。

「転生者ア！ 何故彼が君をここに連れてきたのか

何故同じ話し方しかないのか

何故泣いているようなのかわア！」

「それ以上言うな！（ジヨル神1）」

ワイワイワイ

「その答えはただ一つ……」

「やめろー！（ジヨル神2）」

「アハア……♡」

（唐突に走り出すジヨル神3）

「転生者ア！彼が初めて見た……あまりに酷い死に様に狂ってしまったからだああああ

!!」

「僕が……狂っている……？」 ツヘーイ（煽り）

「嘘だ……僕を騙そうとしている……」

「…いや、なんだよこれ。なんで金髪っぽい方は分裂してんだよ。てかそもそもお前誰だよ」

「私は……神だアアアアア!!」

「なんでお前は名前を聞かれて種族名答えてんの？バカなの？」

「……」

あつ、一般人っぽい方がなんかフード被つて子供っぽい雰囲気になった。あれ？金髪っぽい方に向き直ったぞ？

うわつ、なんか内側に棘みたいなのがついたベルトが金髪の方に巻かれてってる。痛そう（他人事）

「君は僕の友達だ、あいつを不幸にして！」

「うう、できません……！私の仕事は、人を幸せにする、ことだからあつ……！」

「違うって。君の仕事は、人類滅亡だよ」

「うわああああ……滅亡迅雷 net に接続」

あつ、終わったみたい。こっちに来るっぽい。ん？手になんか持つてる？

「私の仕事は人間をしあ wa ……不幸にさせること！」

ゴールド！ゼツメライズ！

うわつ、全身金色の人型のテントウムシっぽくなっちゃった!??

あれ？なんでさらに近づいて来るの？なんで右足上げてるの？え？え？いやー、蹴つたりしないよね？ね？

「無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄、無駄ア！」

なんでこうなんだよお！